# 戦略的創造研究推進事業の研究評価システム(科学技術振興機構：ＪＳＴ)

ＪＳＴからの提案に基づき、ＪＳＴの科学術振興審議会に置く評価委員会にて選任。

申請書

募集の際、研究総括より領域の概要、募集・選考にあたっての考え方を提示

**研究申請書受理**
年1回
全ての領域について同時に募集
(5月～6月)

**申請書の振分け**
研究総括
↓
*領域アドバイザー*
*(6～10名程度)*

○ 研究総括が、すべての提案書を読み、領域アドバイザーの専門性・所属機関等を考慮して提案書類を振り分ける。
(1提案につき2名以上)

審査過程では、申請者と師弟関係等にある評価者が評価に関わらないよう配慮し、公正性を確保。

○各領域アドバイザーは、担当する提案書類について評価書類を作成

**書面審査**
1次評価
領域アドバイザーによる評価が高いもの30件程度／半日
評価者
研究総括　1人
領域アドバイザー
6～10人程度

○ 研究総括、領域アドバイザーが一同に会し、各人が持ち寄った評価結果を基に総合的に議論し、面接対象者を選考。
予定採択課題数の2～3倍まで絞り込む。
○ 不採択者に対しては、理由を付して通知。

**ＪＳＴ内窓口**

問い合わせへの対応

相談、質問、確認、不服等

審査結果を主な評価内容（不採択理由を含む）とともに通知

**面接審査**
2次評価
10～12件／1日
評価者
研究総括　1人
領域アドバイザー
6～10人程度

○ 面接対象者は自らの研究構想、研究実施体制等について研究総括及び領域アドバイザーに対し、プレゼンテーションを行い、質疑応答。
○ 全面接対象者の面接終了後、研究総括及び領域アドバイザーによる議論を行い、採択候補者を選考。
○ 不採択者に対しては、理由を付して通知。

**研究申請者**
**不採択者を含む**

審査結果を主な評価内容（不採択理由を含む）とともに通知

**研究課題の決定**

他府省の競争的資金との重複を排除

**研究開発の実施**

研究総括による研究マネジメント及び評価
(年数回の資源配分)

年次報告書

最終報告書

1年 2年 3年 4年 5年

**継続課題**

**ＪＳＴ事務局**

**公表**
シンポジウム、年報、終了報告書

**追跡調査**
必要に応じて外部機関を活用しておこなう。
○研究終了後5年を目途に、研究成果の発展状況や利用状況、参加研究者の活動状況等について調査

**中間・事後評価**
(個人型は事後のみ)
研究総括が領域アドバイザー及び外部評価者の協力を得て行う。
○研究開始後3年目を目途に中間評価、研究終了時に事後評価を実施
○中間評価の結果は以降の資金配分に反映。

**研究領域評価**
(個人型は事後のみ)
科学技術振興審議会による評価
○領域発足3～4年を目安に中間評価、研究領域の終了後できるだけ早い時期に事後評価を実施。
○戦略目標の達成度を評価

**評価（継続研究）**
科学技術振興審議会による評価
○研究終了前に、研究者から継続研究の為の提案書を提出。
○今後更なる発展が期待できる研究者については継続研究として一定期間の研究を継続。

**研究総括と領域アドバイザー**　(任期：領域の発足から終了まで)

**研究総括**

要件
・当該研究領域について、先見性及び洞察力を有する者。
・研究課題の効果的・効率的な推進を目指し、適切な研究マネジメントを行う経験、能力を有する者。
・優れた研究実績を有し、関連分野の研究者から信頼されていること。

役割
・研究領域の課題の事前・中間・事後評価の責任者
・領域アドバイザーの選任
・毎年のレビュー
・評価結果の資金配分への反映
・研究進捗状況の把握、助言等

**領域アドバイザー**

要件
・高い専門性を有すること
・公平無私であること
・豊かな経験をもつ研究者または第一線で活躍する研究者
・専門性や所属機関のバランスを考慮して選任

役割
・研究領域の課題の事前評価
・中間・事後評価
・研究者への助言等

**研究課題の事前評価項目**

以下の評価項目に基づき総合的に判断

[チーム型研究] 評価項目
①研究代表者
・自らが研究構想の発案者であること。
・優れた研究実績を有し、研究チームの責任者として研究全体に責務を負う事が出来る者。
②研究課題
・先導的、独創的な基礎研究であること。
・インパクトを与える可能性を有すること。
・技術の進歩に画期的な役割を果たし、新産業創出への手掛かりが期待できること。
・戦略目標及び研究領域から見て適当なこと。
③研究計画
・適切な研究実施体制、実施規模であること。

[個人型研究] 評価項目
①個人研究者
・自らが研究構想の発案者であること。
・研究遂行のために必要な研究実績と責任能力を有すること。
②研究課題
・独創性があること。
・インパクトを与える可能性を有すること。
・戦略目標及び研究領域から見て適当なこと。
③研究計画
・適切な実施規模にあること。

**採択率(2004年度)**

| | タイプ名 | 応募数 | 採択数 | 採択率 |
|---|---|---|---|---|
| 新規 | チーム型 | 617 | 42 | 6.8% |
| | 個人型 | 708 | 45 | 6.4% |
| 継続 | 継続研究 | 151 | 33 | 21.9% |

[科学技術・学術審議会　基本計画特別委員会（第8回）　資料3より]